

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

脊椎感染症に対する経皮的穿刺ドレナージの菌検出能および除圧効果、感染制御等の臨床経過に関する調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2010年1月から2021年9月の間に脊椎感染症に対して当院放射線科で経皮的ドレナージを施行された方

2. 研究目的・方法

脊椎感染症の大部分は保存的治療で治りますが、一部は治療抵抗性で手術を要し、高齢、基礎疾患がある症例にとって侵襲が大きいです。起因菌の同定、適切な抗菌薬投与が治療のキーであり、抗菌薬投与前の画像ガイド下の生検、検体採取が推奨されています。一方で、生検、検体採取と同時に施行されることの多い経皮的ドレナージはその有用性が報告されてはいるものの、いまだ根拠に乏しく、標準的とは言えない状況です。本研究は経皮的ドレナージの診断能と臨床経過を明らかにし、その有用性と最適な診断、治療方針を検討することが目的です。

方法は当院で過去11年の間に感染性椎間板炎に対して経皮的ドレナージ留置を施行された患者の手技内容と臨床経過について、画像診断システムとカルテ情報を用いて後ろ向きに調査します。

本研究は学術研究であり、下記に記載された情報が取得されますが、個人情報に含まれず、本研究者間のみで共有されます。

研究期間

「昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、研究機関の長の研究実施許可を得てから 2022年12月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者さん背景(年齢、性別、既往歴、現病歴、併用薬、入院日、退院日、入院期間、転帰、ドレーン留置期間、手術移行の有無、術式)
- ・手技実施に関する情報(穿刺日時、穿刺部位、手技内容、手技の成否、合併症の有無)
- ・血液データ(炎症所見:WBC・CRP・ESR)

・画像データ(脊椎の X 線・CT・MRI)

を調査対象とします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

また資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

所属:昭和大学放射線科(放射線医学講座)

氏名:甲斐亮三

住所:東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号:03-3784-8240

研究責任者:甲斐 亮三